

- ・研究のテーマ的な部分に関しまして、本来は皆さんお会いして話すというのが、代わりにオンラインという状況になることで、普段の対面のときとは少し違う、違和感あるということは皆感じていると思います。その違和感を脳でどのように感じているかということを対象に研究をしていくということが新たなテーマとして、サイバーフィジカルな融合を目指していく上で、重要というように最近考えています。

- ・我々の研究はそもそも人類の幸福にどう貢献するのかということを中心に考えながら進めるというのは重要なのではないかと考えていました。この基本計画にそういうワードが出ていたのでやっぱりそうだよなと思った

ところがあります。ゲームやエンターテインメント系をむしろお金払ってまでやるぐらいモチベーション持ってやっているという部分をうまく神経科学的な研究を行い、エビデンスを見つけてあげることで、皆それぞれのモチベーションが出る場所の違いが分かり、みんなのやる気スイッチを見つけてあげることができます。皆さんそれぞれモチベーションを持って仕事や勉強ができるようになるのではないかと、皆さんそれぞれの幸せに繋がっていくのではないかと考えています。



成瀬 康 氏



南光 一樹 氏

- ・海外の森林で研究をする場合に、現場のその場でデータを取り、機械を置いてバッテリーで動かしながらデータを取り続けます。バッテリー交換やデータ回収のために、例えば3ヶ月ごとに訪れる必要がありますが、行けなくなると途中でデータが途切れてしまいます。森林というのは、1年で育つわけではなく、10年20年50年と長い時間かけて成長していきますので、なるべく継続的にデータを取っていきたいのですが、コロナウイルス感染症の影響をうけて途切れてストップしてしまうのが、痛いと考えています。

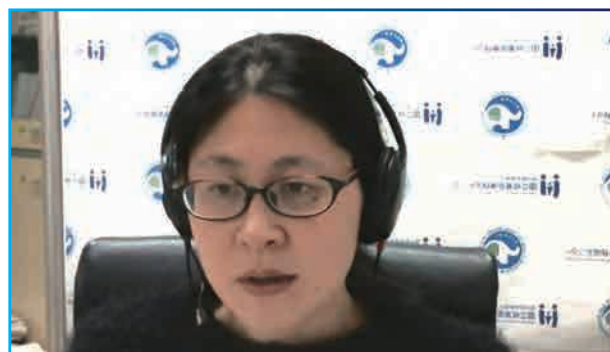
- ・日本は雨も多く、台風も毎年のように必ず来ます。また、山が多くて、急峻な地形できている火山国なので、自然条件で、土砂災害、風による害がそもそも起きやすい国になっております。それを防ぐのはなかなか難しく、どうにかして緩和し、なるべく被害を少なめにするために、森林整備でどのように関われるかというところが、我々の研究テーマの一つです。ハード的な技術ですべてを防ぐことはできないので、人文社会科学とも連携しながらソフト面での対策も一緒にやっていく必要があります。

- ・異分野の連携はぜひとも進められればと思っています。NPOは今後相性が良い点が出てくると思っています。私達は医学周辺の社会環境を科学していますが、例えば、貧困の問題であれば社会学者、子供の人権であれば倫理家、人権学者の連携、教育現場との連携など今後も進めていく必要があると思います。

- ・強靱性の確保について、今回のコロナ禍を見ていると感じるのは、通常狭い範囲での災害であれば、被災者に対して、大丈夫な地域が援助を行う体制が整えられてきたと思いますが、ほぼ全世界で被災している今回は、より深刻な状況にある他人に手を差し伸べる余裕がある者とか国が減っている可能性を感じています。災害時にはもともと厳しい状況におかれている社会的弱者に影響が偏在化しやすいが、この

ようなときだからこそ社会弱者を守ること、本当に必要なセーフティネットを目指すきっかけだと思います。

- ・小学校以上で学校の先生、養護教員に子供たちの保健的な問題の責任が担われている傾向があるかと思っています。コロナ禍の前からも教師のバーンアウトが問題視されていましたが、感染対策、給食の対応、子供のメンタル対応など、本当にやることが増えているので、この学童期においても、従来の学校中心としてだけではなくて地域保健師、小児科医などが役割を担いやすい風潮が進めばいいと思います。

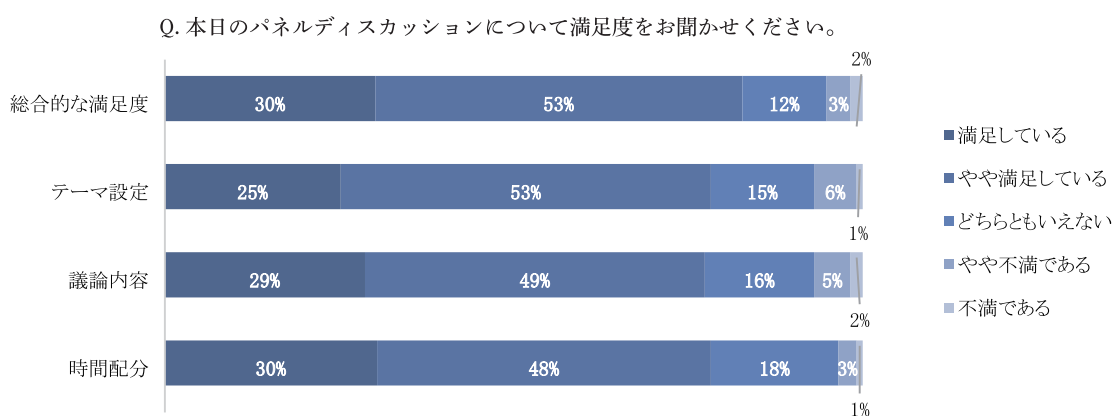


森崎 菜穂 氏

X 参加者アンケートより

パネルディスカッション参加登録者 519 名にアンケートを送付した結果、120 名からの回答がありました。アンケート回答者の半数程度は国研所属、その他は民間企業、大学、官公庁など国研以外に所属する回答者であり、多様な参加者層から回答がありました。

パネルディスカッションの総合的な満足度、テーマ設定、議論内容、時間配分について質問したところ、全ての項目について 75% 以上の方が「満足している」「やや満足している」という回答があり、満足度が全般的に高いことが分かりました。



「パネリストの議論や発言を通して国研組織の在り方に加えて、国研の研究者の取組やモチベーションなどに興味を持った」、という声や、「このような機会を継続して実施してほしい」という声があり、次回開催に向けての期待の声が多く寄せられています。この他、多くのご意見・ご感想をいただきましたので、その一部をご紹介します。

- ・ 司会の方もパネリストの方々も非常に視聴者に対して分かりやすく議論・進行して頂き大変興味深く拝聴させていただいた。是非この様に国研や国の取り組みやディスカッションなども今後実施して頂けると我々大学の研究者にとっても良い刺激となる。今後も期待したい。
- ・ パネリストの方が「自身の研究内容とその継続性を担保するために、事業化を目指した」と発言している点に興味をもった。企業など産業界との協働の自由度が上がることでより魅力的な研究が生まれることを楽しみにしている。
- ・ 国研に関わる方がどのように起業にいたったのか具体的なお話が聞けた点、コロナの時代におけるコミュニケーションの課題、質の向上、モチベーション向上のテーマに言及されていた点に興味を持った。
- ・ 新しい世代のアントレプレナーや研究者のネットワークを形成していくことが重要であると感じた。
- ・ 国研の横のつながりや成果の還元について興味を持った。大学で研究を行う上で、オープンイノベーションの重要性は認識しているが、一部を除いてどうしても閉鎖的になっていると感じる。やはり横とのつながりや成果をどう対外的にアピールしたり、事業化に繋げるかと言ったことは非常に興味がある点である。
- ・ パネリストが取り組む研究内容や事業内容を聞き、共通して社会への貢献を強く意識していることが分かった。

X 国研のチャレンジ

本会議ウェブサイト「国研のチャレンジ」では、13法人に動画提供のご協力をいただき、国研研究者の取組と研究への思いを動画で紹介しました。

ウェブサイト URL : <https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/5kokken.html>

医薬基盤・健康・栄養研究所
フレイルの研究

吉田 司 様

国立精神・神経医療研究センター 橋本 亮太 様、青木 吉嗣 様
精神・神経・筋難病の克服を目指した研究開発

建築研究所
新型コロナウイルス感染症流行による
家庭エネルギー消費への影響調査

上野 貴広 様

国立循環器病研究センター 朔 啓太 様
循環器医療のミライ～患者個別シミュレーターと融合型自動治療～

国際農林水産業研究センター
アフリカの食料生産に貢献する国際共同研究

辻本 泰弘 様

防災科学技術研究所 先名 重樹 様
地下構造モデルの構築と社会実装

国立環境研究所
地域でつくる脱炭素社会ビジョン

五味 馨 様

防災科学技術研究所 鈴木 比奈子 様
過去の災害資料を防災に生かす

産業技術総合研究所 内藤 航 様、篠原 直秀 様
新型コロナウイルス対策に資する
交通車両・集客施設等における換気等の計測と評価

水産研究・教育機構 羽野 健志 様
水産業の未来を化学分析で切り拓く

日本原子力研究開発機構 井戸村 泰宏 様
原子力分野のシュミレーション技術に基づく
イノベーション創出への貢献

水産研究・教育機構 河東 康彦 様
魚の病気はどのように広がるのか可視化する

農業・食品産業技術総合研究機構 杉浦 綾 様
ドローンによる大規模農地空間情報のリモートセンシング

量子科学技術研究開発機構 柏木 美恵子 様
コロナ禍でも進む核融合国際プロジェクト：
オンライン監督による超高電圧装置の試験に挑戦

理化学研究所 高橋 恒一 様
【研究者に直撃インタビュー！ #1】科学を自動化したい！

また、4法人からそれぞれの法人の取組に関する YouTube チャンネルや発表動画の紹介をいただきました。

- 理化学研究所 (YouTube 公式チャンネル)
- 物質・材料研究機構 (YouTube 公式チャンネル)
- 国立がん研究センター (YouTube 公式チャンネル)
- 防災科学技術研究所 (令和2年度 防災科研 成果発表会 研究者による成果発表動画)

作成：株式会社 NTT データ経営研究所

※ 本文内記載の所属・肩書等の情報は本資料作成日時点のものであり、最新ではない可能性があります。